

行仙宿補給路の補修材荷揚げと継の窟で護摩供

◇実施日 10月24日(日) 晴

◇参加者

熊野修験：柴田實英、花井淳英、成田佳子

平岡健治(下北山村)、田中美智恵(鳥羽市)

山彦

；沖崎吉信、児島道夫、橋本梓、濱野兼吉、生熊敏男・

千満子、大江加予子、畑林清子、中前偉、内野井慎

搾、松本吉殖、西克、高階鈴子・美根子、山川自知、

岩本信行、梶野照雄 22名

やるべき課題はたくさんあって、一つ一つクリアすべく頑張っているのだが、一つをクリアするとその後で必ず新しい課題が出てくる。

行仙宿補給路の送電線工事による樹木伐採によって登山道の谷側が崩れ始めてきた。木を切ると露出した土は乾燥し、雨が降るたびに土が流れてしまう。おまけに柔らかくなった土をイノシシが掘り返して、崩れは登山道そのものにまで影響を及ぼし始めた。

こうなることを予感していたので、以前から行仙宿訪問の都度、補修材料の杭や栈木を運びこんでいたが、今回22名の参加申し込みがあり、有難いチャンスだと思って、当日の午前中を丸太の荷揚げにあてることを企画した。



川島前代表の慰霊



補修個所に資材を運ぶ



お堂で勤行

今回はほぼフルメンバーの参加で、中前君の肝入りで熊野修験の行者さん5人の参加もあり、継の窟での護摩供養も行うことになった。補給路の補修箇所はおよそ30mの距離があり、かなりの材が必要になるので、事前に村吉さんに調達をお願いしていたが、その資材は前日に登山口に届けられていた。

登山口の杭や丸太とモノレール車庫後の丸太など、50本を越える数をモノレール3往復で終点まで荷揚げした。

午前9時には行者さん達も到着し、登山準備の後スタートする。途中、川島前代表供養塔でお経を唱えて頂いた。

全員がモノレール終点に着き、補修現場まで資材の荷揚げを行う。丸太を肩に担ぐ人、脇に抱える人など、第2ベンチで一旦休憩する人など、各自の方法で2往復(3往復した人も)して荷揚げを終了。以前、下北山村役場から提供して頂いた丸太が17(18本、半割の丸太も同数位、杭は30本近くなど、50本を越

える数が荷揚げできた。

大人数の成果だ。時間も1時間と少々で、3人や5人ではここまでの数量を荷揚げできない。改めてマンパワーの威力を実感した。補修資材の荷揚げを終えて小屋に向かう。小屋に向かう時も薪材を手にももらう。山彦さんは毎回ここまで頑張っているのか、はたまた人使いが荒いと思ったのかは聞いていなかった。

行仙宿に到着、行者堂に整列して勤行する。故山川治雄氏の追善供養と作業の安全祈願もお願いした。

夜勤明けの内野井君と、早朝に鳥羽を出た田中美知恵さんも到着し、少々早い昼食とし、12時頃に継の窟に向けて出発することにした。



継の窟への降り口



ロープを追加する



道なき道に行く

予定通り12時に継の窟に出発。生熊、橋本、畑林の3名が小屋に残って清掃などを担当。梶野君には下降用にザイルをお願いする。私は女性陣と共に最後尾で下降口に到着した。

設置済みのロープは太く、運動会の綱引きロープ位の太さがある。これは何年か前に岡室さんが設置されたものだと思う。

設置にはご苦労があったと思うが、この太いロープをここまで運んでくるのが相当大変だっただろう。

途中、内野井君が待機されて、一人一人に間隔や落石注意を指示してくれた。60mほど降りて、左側にトラバースする。山彦のメンバーで5〜6人が継の窟訪問歴があるが、5年以上も来ていないので記憶も薄れがちだ。



継の窟に到着



窟の奥は狭い



窟で護摩供

継の窟までは殆ど人が通っていないので踏み固まっておらず、どこを歩いても足元はガレガレのズルズル、急傾斜なので慎重な歩行が必要だ。

持ってきたザイルは植平さんから頂いたもので、等間隔に結び目がついてあるので使いやすい。ザイルの取り付け中に私が先頭になり、テープに導かれて登りに転じる。トラロープが取り付けられて

いるが、細く頼りない木も持ち、3点支持で体を持ち上げ、やっと窟の前にたどり着いた。一人二人と順次到着、全員が揃ったのは小屋を出てちょうど一時間だった。皆さん歳を取ってきたのか異口同音に「こんなしんどいとは思わなかった」と。到着と同時に、帰りの方が怖いよねと心配している。

行者さん達は持参の法具や供物を並べ、入念な打ち合わせの後護摩供を始められた。窟内に響く法螺の音と護摩の炎、読経の声は形容しがたい厳粛で神秘的な時間であった。行者さん達も初めて継の窟を訪れ、そして初めての窟前での護摩供が出来、大変喜んでいただいた。

窟前を清掃して帰路に就く。奥駈道から継の窟まではテープが多数巻かれて迷う心配は少ないが、急傾斜と不安定な足元なので、誰にでも勧められる訳ではない。継の窟訪問は慎重な行動が求められる。



本日の参加者行



仙宿に戻る



下山

1時間弱で小屋に戻る、小屋に残った3名は小屋内外の整理・清掃、特に生熊さんはトイレの汲み出しをしてくださった。

補給路の補修資材は、予定量の全てを荷揚げ完了、継の窟も久しぶりに訪問でき、充実成果の一日だった。

中前君と内野井君は行仙宿に一泊したが、暗くなってから逆峯修行中の椎木さんがやってきて、翌朝午前5時、雨の中を出発していったそうだ。

(記：沖崎)

行動タイム

補給路登山口 08:30 → 10:45 行仙宿 12:00 → 13:04 継の窟 14:05 → 14:55 行仙宿 → 15:40 補給路登山口